

令和4年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
管理機関名 東京都教育委員会
代表者名 教育庁 藤田 裕司

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

- 1 事業の実施期間
令和3年4月1日（契約締結日）から 令和4年3月31日まで
- 2 指定校名・類型
学校名 東京都立八丈高等学校
学校長名 佐藤 俊一
類型 地域魅力化型
- 3 研究開発名
八丈やろごんプロジェクト
- 4 研究開発概要
【研究開発目標】
「八丈島を支える人材を地域とともに育てる」

【ランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像】

- 目標の実現のために、自主的・主体的に学び続け、自分で道を切り拓ける人物
- 社会の変化に対応できる広い視野をもち、率先して動く自立した人物
- 地域、歴史、自然、産業、伝統文化に対する深い理解をもち、誇りに思える人物

【八文学I（1年次）】

1学期に八丈島の自然、歴史、文化、産業に関する地域の方からのレクチャーやフィールドワークを通して、八丈島に関する理解を深めるとともに、島の価値や課題を見いだすことができるよう、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究のサイクルを用いて探究の基礎学習を行う。また、主体的に八丈島の地域課題に気付くことができるよう、2学期にフェノロジーカレンダーを作成した。

3学期には、作成したフェノロジーカレンダーを活用して、島内小中学校及び八丈島に来島した学校への成果発表や島外への訪問発表を実施した。また、オンラインを活用し、生徒による都内小中学校への発表や都内高等学校との交流を行った。年間を通して地域と向き合うことで、自己理解を進め、地域の特性や課題に気づく力を育んだ。

【八丈学Ⅱ（2年次）】

令和3年度に開講した八丈学Ⅱでは、地域の実態を踏まえたより現実的な探究学習を行い、解決策の提案を行う島民会議を実施した。1学期には、1年次に行った八丈島に関する基礎的な学びを基に学びを深めるとともに、生徒の主権者意識を高める工夫を行った。2学期には、地域と学校が一体となって、八丈島の未来について考え、地域課題の解決策の提案の場として「島民会議」を開催した。2学期後半から3学期にかけて、島民会議に参加した島民からの意見を基に個別研究の実験やフィールドワークを行い、課題の実証や実現の可能性を検証した。地域課題の解決を図る活動を通じて、自己の生き方や島の未来を考え、課題発見・解決能力や将来設計能力を育んだ。

【八丈学Ⅲ（3年次）】

令和4年度に開講する八丈学Ⅲでは、地域を活性化させ、島内外に八丈島の魅力を発信するための実践的な力を身に付けるため、持続可能で、実現可能な行動計画を立て実践する。1・2学期を通じて、観光甲子園や田舎力甲子園などのコンテストに応募し、具体的な行動計画を発信する。年間を通して、課題解決に向けた実践力を養うため、自己実現のための具体的な行動と地域の将来のための具体策を発表するなど、地域探究学習の成果を広く伝える活動を行う。

これら3年間の研究開発により、研究開発目標及びグランドデザインに基づいた育成すべき生徒の将来像の素地を確実に身に付けられ、カリキュラムの開発を指定期間終了時のゴールとする。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

氏名	所属・職	備考
茂手木 清	八丈町教育委員会・教育長職務代理者	学校教育に専門的知識を有する者
林 薫	八丈町教育委員会・臨時職員	学校教育に専門的知識を有する者
大沢 力	製菓やたけ・社長	地域産業界関係者
長田 隆弘	長田商店・社長	地域産業界関係者

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
東京都教育委員会	藤田 裕司（教育長）
八丈支庁	池野 大介（支庁長）
教育庁八丈出張所	永田 史子（副所長）
東京都立八丈高等学校	佐藤 俊一（校長）
八丈町役場	山下 奉也（町長）
八丈町教育委員会	佐藤 誠（教育長）
八丈島観光協会	田村 真吾（事務局長）
八丈町商工会	間仁田 聡（会長）
八丈島空港ターミナルビル株式会社	吉田 倫久（代表取締役専務）
東海汽船株式会社	山崎 潤一（社長）
東京都立大学総合研究推進機構	柴田 徹（URA・産学連携専門部長）
文教大学地域連携センター	野島 正也（学長）
八丈ビジターセンター	高須 英之（センター長）
フェノロジーカレンダー研究会事務局	田島 幸郎
八丈太鼓よされ会	奥山 善男
八丈島エコツアーガイド協会	大類 由里子
八丈島移住定住促進協議会	内山 江差夫

8 カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発等専門家	増渕 達夫	帝京大学教育学部教育文化学科教授	委嘱
地域協働学習支援員	佐治 渉	八丈町役場企画財政課	委嘱
地域協働学習支援員	大類 由里子	八丈島エコツアーガイド協会・副代表	委嘱
地域協働学習支援員	大澤 萌	あいがえ企画・代表	委嘱

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校視察 学校訪問									22日 ★			
定例会出席 (オンライン)		14日 ★	25日 ★	28日 ★			8日 ★	19日 ★	15日 ★	28日 ★		4日 ★
コンソーシアム協議会出席 (オンライン)				15日 ★				25日 ★			4日 ★	

(2) 実績の説明

① 学校視察・学校訪問

〔内容〕

校内体制の構築、島民会議実施方法について指導・助言を行った。

② 定例会出席(オンライン参加7回)

〔内容〕

校内体制の構築、発表資料作成、島民会議実施方法、島外学校との連携について指導・助言を行った。

〔成果〕

担当教員から直接学校や研究の状況を把握し、生徒の活動や取組内容の改善を図ることができた。

③ コンソーシアム協議会(オンライン参加3回)

〔内容〕

島民会議実施方法、振り返り、次年度へ向けて指導・助言を行った。

〔成果〕

担当教員、地域協働学習実施支援員、コンソーシアムから研究の状況を把握し、島民会議の実施方法について改善を図ることができた。

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【八文学Ⅰ】 八丈島の自然、歴史、文化、産業等地域課題学習	①											
【八文学Ⅰ】 島のPR動画の制作を通じた探究活動				②								
【八文学Ⅰ】 フェノロジーカレンダーの制作を通じた探究学習							③					
【八文学Ⅰ】 探究学習を基にした発表活動										④		
【八文学Ⅱ】 島民会議での政策提言に向けての地域課題学習	⑤											
【八文学Ⅱ】 島民会議の事前準備・事後整理							⑥			島民会議		

【八文学Ⅱ】											⑦	
プレ個別課題研究												

(2) 実績の説明

① 八丈島の自然、歴史、文化、産業等の地域課題学習

〔内容〕

地域人材の活用により、八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業等を学び、島の価値や魅力について知る学習を実施した。

- ・八丈島ビジターセンター所長 高須英之氏
6月17日 八丈島の自然についてフィールドワーク
- 6月24日 講演会
- ・八丈町教育委員会 茂手木 清氏 林 薫 氏
6月3日 八丈方言について

〔成果〕

八丈島の自然、歴史、文化、伝統、産業について学び、その価値を再確認し、共有することができた。

② 島のPR動画の制作を用いた探究活動

〔内容〕

八丈島の魅力を動画を用いて発信する方法を学習した。作成した動画は、文化祭での発表、また、フェノロジーカレンダーの追加説明として、カレンダー内 URL を付けて発信した。

〔成果〕

動画作成の技術やPRするためのポイント、著作権などについて、情報共有ができた。

③ フェノロジーカレンダーの制作を通じた探究活動

〔内容〕

島の価値や魅力についての学習を基に、八丈島のイベント、動植物、草花、野菜、海産物等の項目ごとに実施月や収穫の時期など季節ごとに分類・整理し、季節の暦カレンダーであるフェノロジーカレンダー及び動画を制作した。

- ・12月17日 文教大学 海津ゆりえ 教授

〔成果〕

調査した内容を整理、まとめることにより、島の価値について理解を深めることができた。

④ 探究活動を基にした発表活動

〔内容〕

フェノロジーカレンダーについて発表活動を実施した。

- ・1月27日 1年生の2年生への発表し、2年生から1年生への指導・助言
- ・3月18日 都立立川高等学校オンライン成果発表会

〔成果〕

成果を伝えることができ、探究活動の課題等をさらに気づくことができた。

⑤ 島民会議での政策提言に向けての探究活動

〔内容〕

島民会議に向けて、八丈島の地域課題及びその解決策について、探究活動を実施した。

- ・コンソーシアムによる生徒への指導助言（随時）
- ・東京都立大学 宮下与兵衛特任教授による講演（2月3日）

〔成果〕

島の課題に気づき、解決策を深めることができた。また、主体的に課題に向き合うことで、主権者意識を育むことができた。

⑥ 島民会議での意見交換に向けての事前準備、事後整理

〔内容〕

島民会議に向けての

- ・11月25日 プレ島民会議(島内コンソーシアムによる指導・助言)
- ・12月22日 島民会議
- ・2月3日 東京都立大学 宮下与兵衛特任教授 講演

〔成果〕

成果を伝えることができ、探究活動の課題等を更に気づくことができた。

⑦ プレ個別課題研究

〔内容〕

八文学Ⅲに向けて、個人課題研究の探究課題を設定した。

〔成果〕

多くの分野に視野が広がり、探究活動だけではなく、進路活動にも関連付け、将来設計能力を育むことができた。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

管理機関及びカリキュラム開発等専門家と連携を図りながら、教務部及び授業担当者のメンバーが検証を行い、PDCAサイクルに基づいて改善を進めた。

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

① 卒業時に生徒が修得すべき具体的能力の定着状況

- a 全校アンケートの「島に戻って仕事をしたい」と考える生徒を増やす。

2年次目標 40%、2年次実績 43%（本校アンケートより）

生徒の「八丈で仕事をする具体的なイメージがない」、「自分から仕事をみつけていく」という意識が身についていないと考えられるため、本事業で島に対する「当事者意識」を高め、改善する。

② 高校卒業後の地元への定着状況

- b 卒業生に対する卒業後2年目のアンケートにおいて、島への就職を視野に入れている者を増やす。

2年次目標 60%、2年次実績 調査未実施

定着状況は、八丈の外を経験した生徒への意識調査でわかると考える。八丈町と連携し

てアンケートを行い、島へのUターンを紹介するきっかけとする。

③ その他本構想における取組の達成目標

c 八丈町立中学校からの都立八丈高等学校への進学率を上げる。

2年次目標 90%、2年次実績 90%（1月中進対調査結果から）

八丈町立中学校の進学先として、島外を目指す生徒が多かったが、今年から少しずつ八丈高校を選ぶ生徒が増えている。さらに、八丈高等学校から地域興しをすることで、中学校へアピールをし、島内の中学生の確実な獲得を目指した後に島外の中学生の獲得に目を向ける。

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

① 地域課題研究又は発展的な実践の実施状況

a 地域開発に関するコンテスト受賞数

2年次目標 2、2年次実績 0（八文学Ⅲ未実施のため）

社会科の教員を中心に、地域創生のためのコンテストに参加した実績がある。その経験を生かして、八文学の授業を中心として校内でコンテストに取り組む。外側からの評価を受けたことのない生徒の挑戦する機会として参加する。

② 普及・促進に向けた取組の実施状況

管理機関での発表 2回、地域での広報誌掲載 9回

③ 島外学習での学校訪問数・テレビ会議を利用した交流の回数

2年次目標 15回、2年次実績 65回（1回の交流規模を大きくしたため）

生徒自身が発信をする機会を多く持つ。テレビ会議は昨年からは生徒会を中心に三宅高校や大島高校、夕張高校との交流に役立てている。さらに授業で活用することで、多くの学校や自治体に八丈島をアピールする機会としたい。

④ その他本構想における取組の達成目標

b フェノロジーカレンダー設置場所

初年度目標 10カ所、初年度実績 15カ所、2年次は15カ所設置予定

作成したフェノロジーカレンダーは、島外学習や都内学校で説明する資料とする。完成したフェノロジーカレンダーは、八丈空港を始め、底土港、島の各公民館、伊豆諸島の各地、都内公民館、などへの設置を検討している。

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

① 地域人材を育成する地域としての活動の推進状況

a 全校アンケート調査にある「島を盛り上げていきたい」と答える生徒を増やす。

初年度実績 45%、2年次実績 64%

八丈島によくなってほしいと考えている生徒は半数以上になるが、自分から何か働きかけようとする生徒は少ない。全島民会議や実際の地域開発を通して、自分でできることや地域開発の意義等を知ることによって、島を変えたいと考える生徒の育成を目指す。

② その他本構想における取組の達成目標

b 全島民会議の参加者数の増加

2年次目標 200、2年次実績 140人（新型コロナウイルス感染症の予防と拡大防止のため人数制限したため）

昨年度まで開催した「八高生版議会」を改良し、町と共同開催の全島民が参加する会議を開催し、全島民で八丈町をどのような町にするかを考える機会とする。多くの地域住民の理解が得て、参加者を増加させる。

<添付資料>目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

〔課題〕

- ① 探究活動について、課題設定や調査方法などの探究を深める工夫が一層必要である。
- ② 教職員全体の八丈学に対する理解は深まってきたが、担当を中心に全教員で組織的に取り組むことができていなかった。
- ③ コンソーシアムの連携先の本事業への関わり方が様々であったため、事業終了後の持続可能な組織体制を構築する必要がある。

〔改善点〕

- ① 時間割の工夫により、地域へのフィールドワーク・実習の機会を十分確保する。また、探究課題について、地域の専門家等の助言を定期的に受けられるよう計画することで、生徒の課題意識や理解を深めていく。
- ② 全教員で八丈学に関わることができるよう、毎週、八丈学に関する打合せを行うとともに、月に1回程度の校内研修を実施し、探究活動や本事業への教員間の共通認識を更に高める。
- ③ 他の先進校の取組の工夫や校内組織体制の構築、実施支援体制を参考に、校内体制及び運営指導委員会やコンソーシアム協議会の組織体制の見直しを図る。

【担当者】

担当課	教育庁指導部高等学校教育指導課	TEL	03-5320-6845
氏名	宮崎 智	FAX	03-5388-1733
職名	統括指導主事	e-mail	S900023@section.metro.tokyo.jp